

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 14年9月

～原油価格の大幅下落で先行きの貿易赤字は縮小へ

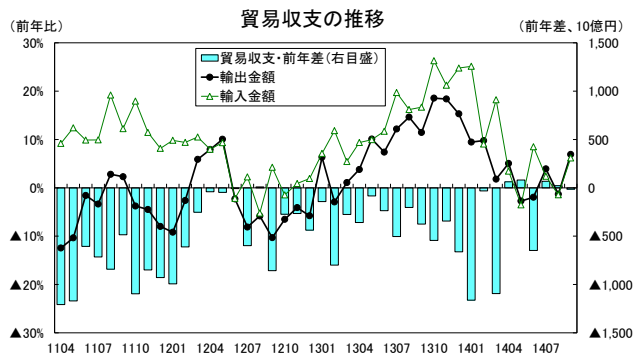
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出入ともに増加に転じる

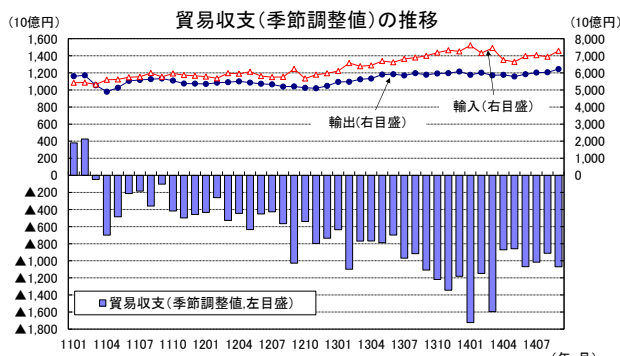
財務省が10月22日に公表した貿易統計によると、14年9月の貿易収支は▲9,583億円の赤字となり、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲7,682億円、当社予想は▲8,066億円）を上回った。輸出（8月：前年比▲1.3%→9月：同6.9%）、輸入（8月：前年比▲1.4%→9月：同6.2%）ともに前年比で増加に転じたが、貿易収支は小幅ながら3ヵ月ぶりに前年よりも悪化した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比2.8%（8月：同▲2.9%）、輸出価格が前年比4.0%（8月：同1.6%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比3.0%（8月：同▲4.6%）、輸入価格が前年比3.1%（8月：同3.3%）であった。輸出入ともに数量の伸びが前月から大きく高まったが、平日（月～金）の数が8月は昨年よりも1日少なく、9月は昨年よりも1日多かったため、通関日数が昨年と異なっていることも影響している可能性がある。



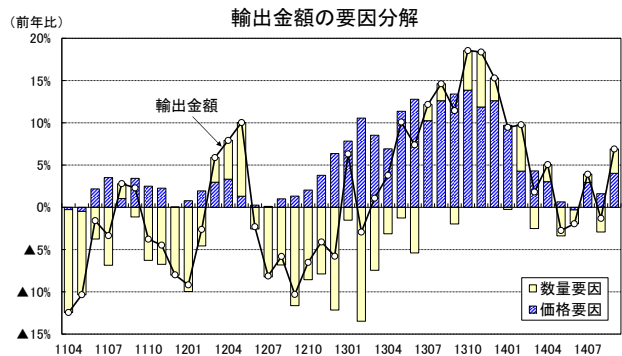
(資料)財務省「貿易統計」

(年・月)



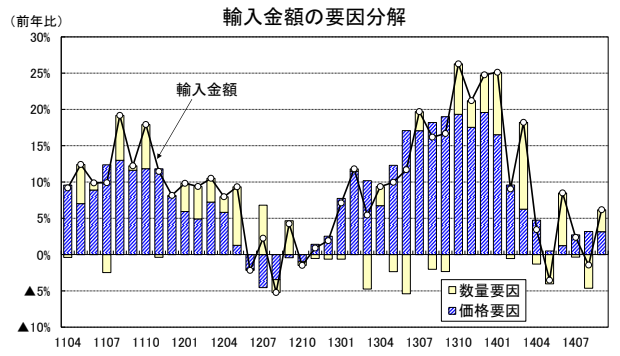
(資料)財務省「貿易統計」

(年・月)



(資料)財務省「貿易統計」

(年・月)



(資料)財務省「貿易統計」

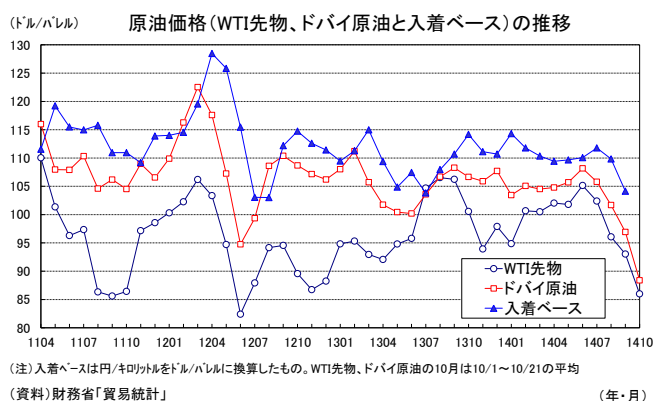
(年・月)

## 2. 原油価格の大幅下落で先行きの貿易赤字は縮小へ

季節調整済の貿易収支は▲10,701億円の赤字となり、8月の▲9,124億円から赤字幅が拡大した。輸出（8月：前月比0.3%→9月：同3.1%）、輸入（8月：前月比▲1.2%→9月：同5.0%）ともに前月比で増加したが、輸入の伸びが輸出の伸びを上回った。四半期ベースの貿易赤字（季節調整済・年率換算値）は14年1-3月期の▲17.9兆円から4-6月期は駆け込み需要の反動による国内需要の落ち込みを主因とした輸入の減少から▲11.2兆円まで縮小したが、7-9月期は国内需要の持ち直しに伴い輸入が増加に転じたため、▲12.0兆円と赤字幅が再拡大した。

ただし、世界経済の減速懸念などからここに来て原油価格が大幅に下落しており、このことが輸入価格の低下を通じて先行きの貿易収支の改善に大きく寄与する可能性が高い。9月の通関ベースの104.1ドル/バレルだったが、足もとの原油価格はWTI先物、ドバイ原油ともに80ドル台とそれよりも2割程度低い水準となっている。通関（入着）ベースの原油価格はドバイ原油に遅れて動く傾向があるため（ただし、運賃や保険料が含まれるため入着ベースの原油価格のほうが水準は若干高い）、10月以降大幅に下落することが見込まれる。

なお、原油価格が2割下落した場合、年間ベースの貿易赤字は約4兆円少なくなる（LNGが原油価格に連動して下落するとして試算）。

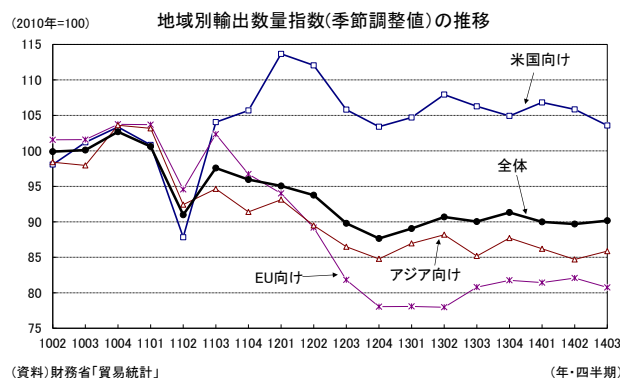
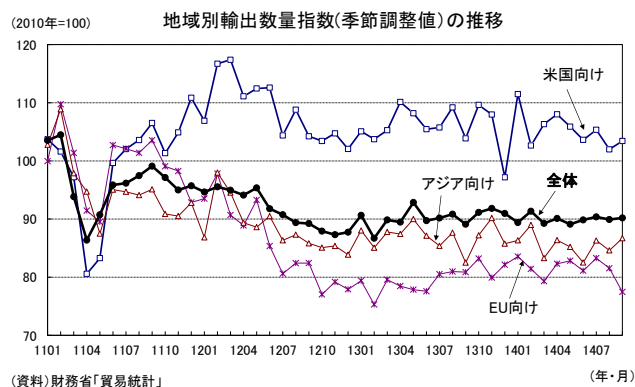


## 3. 輸出は横這い圏の動きが続く

9月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲1.1%（8月：同▲6.2%）、EU向けが前年比▲4.8%（8月：同1.0%）、アジア向けが前年比4.9%（8月：同▲3.4%）となった。

7-9月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比▲2.1%（4-6月期：同▲0.9%）、EU向けが前期比▲1.6%（4-6月期：同0.8%）、アジア向けが前期比1.4%（4-6月期：同▲1.7%）、全体では前期比0.5%（4-6月期：同▲0.3%）であった。

アジア向けは持ち直しの動きが見られるが、米国向け、EU向けが低調で、全体では依然として横這い圏の推移が続いている。米国経済は回復基調が明確となっているが、現地生産拡大の影響から自動車輸出の大幅な落ち込みが続いていることが、米国向け輸出全体を大きく押し下げている。



一方、9月の輸入数量指数（当研究所による季節調整値）は前月比2.3%（8月：同▲1.7%）、7-9月期は前期比0.7%となった。2四半期ぶりに前期比で増加となったが、4-6月期に前期比▲5.0%と急速に落ち込んだことを考えれば持ち直しのペースは鈍い。駆け込み需要の反動減の影響が和らいでいるにもかかわらず国内需要の回復が遅れていることを反映したものと考えられる。

#### 4. 7-9月期の外需寄与度は前期比▲0.1%程度のマイナスに

9月までの貿易統計と8月までの国際収支統計の結果を踏まえて、7-9月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比1%弱の増加、輸入が前期比1%台前半の増加となることが見込まれる。この結果、7-9月期の外需寄与度は前期比▲0.1%（4-6月期：同1.1%）と小幅ながら2四半期ぶりのマイナスとなることが予想される。

---

5. （お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。